

# 本当に安心安全な オーガニックコスメ基準 を求めて

真に安心安全なオーガニックコスメ普及のために、  
日本オーガニックコスメ協会は、  
天然成分100%のコスメ基準とJOCAマークを作った。  
幸いにも現在、日本の化粧品製造技術は、  
その世界でもっとも厳しい基準をクリアできる。  
今後、世界一安心安全な  
「ジャパン・オーガニックコスメ」が  
脚光を浴びていくだろう。

日本オーガニックコスメ協会

水上洋子



## はじめに

オーガニックコスメと言うと、その言葉の発祥地はヨーロッパというイメージが日本にはあります。またそのオーガニックコスメ製造技術の最先端は、環境先進国として有名なドイツではと考えられがちです。

しかし実は今、日本は世界的に見ても、まさにオーガニックコスメ最先端国と言ってよい状況にあります。日本オーガニックコスメ協会 (JOCA) は、その現状に基づいて世界一厳しいオーガニックコスメ基準とJOCA推奨品マークを作り、世界に向けて発信を始めました。

## なぜ日本でオーガニックコスメが早くから普及したのか？

そもそも「オーガニックコスメ」という言葉が最初に登場したのは、ヨーロッパではなく、まさにこの日本でした。2001年に『オーガニック・コスメ——上手な素肌の守り方』(双葉社) という単行本が発行されたのですが、

実はこのとき、まだ世界のどこにも「オーガニックコスメ」という言葉はありませんでした。

この単行本を製作したのは、環境NGOアイシスガイアネットで

した。このアイシスガイアネットを主宰したのは清水童伸氏でしたが、彼は無添加化粧品のPR誌や日本初の環境マガジンの発行を手がけたり、イベント「エコプロダクツ」を発案企画するなどの経験を持つ人物でした。清水氏は、市場に石油合成成分を主体にした化粧品が多く出回り、それが原因で、消費者の間に肌トラブルが増え続けていたことを懸念していました。そして、よりナチュラルで安心安全な化粧品を広めていきたいと考え、この単行本を企画し、出版社に提案しました。私自身も本の制作チームのメンバーとして参加しました。

実はこの本のタイトルが決まるまでに、<sup>ひともんちゃん</sup>一悶着がありました。出版社の編集部は、聞いたこともない「オーガニックコスメ」という新しい言葉ではなく、「自然派コスメ」という分かりやすいタイトルにしたかったのですが、アイシスガイアネットの制作チームは、「オーガニックコスメ」は、コスメの未来を指し示すとても良い言葉で、きつとこれから<sup>はや</sup>流行るはず、と主張しました。結果的には、出版社の方が譲ってくれ、最終的に前出のタイトルに決定しました。

この単行本が出版されて間もなく、出版社も制作チームも思いがけないほどの反響がありました。本に掲載された各メーカーに、全国展開をする大型ショップから次々と電話があり、オーガニックコスメの販売コーナーを作ってみたいという連絡があったのです。その



JOCAマーク

後、同じような動きがほかの店からもありました。その結果、日本で初めてのオーガニック&ナチュラルコスメのコーナーが、日本全国で展開されることになったのです。つまり日本のオーガニックコスメは、ビジネス的な市場調査の結果からではなく、安心安全な化粧品を消費者に知らせたいという環境NGOの良心的な活動から広がっていったのです。

## 海外の オーガニックコスメ事情を知って

2007年に、私はドイツのオーガニックコスメ事情について現地取材をしました。ドイツのマンハイムにあるBDIH（ドイツ化粧品医薬品商工連盟）の代表を務めるヘラルド・デットマー氏をインタビューした際、彼が「オーガニックコスメなんて聞いたこともない」と言ったときはとても驚きました。そのころには、「オーガニックコスメ」という言葉は世界的なものになっている、という思い込みが私の中にあっただからです。

しかし当時、ドイツには「ナチュラルコスメ」という言葉はあっても、「オーガニックコスメ」という言葉はなかったことが分かりました。改めて2001年に発行した単行本のタイトルこそが、世界で初めて「オーガニックコスメ」という言葉を誕生させたものであり、オーガニックコスメはどこよりも早く日本から始まったことを確認しました。そして、ドイツの取材から日本に帰って間もなく、環境NGOアイシスガイアネットを母体として、新たに「日本オーガニックコスメ協会」が設立されました。

## 日本は天然成分100%の 化粧品製造技術で世界一

実は今、日本では天然成分100%で作られたコスメが世界一、市場に多く出ています。それと言うのも、日本の製造者は目標を定めるといち早く実現するという、素晴らしい力を持っているからです。

日本オーガニックコスメ協会は、2010年、日本で天然成分100%の化粧品技術を向上させるために、アルテという化粧品会社を立ち上げました。消費者の安心安全性を考えるならば、天然成分100%の化粧品が望

ましいということを伝えていこうとすると、実際にそういう化粧品が存在しなければ、単なる理想になってしまうからです。

そのために、日本オーガニックコスメ協会の意図に共感してくれるいくつかの製造会社と協力して、防腐剤も界面活性剤も天然成分から成る化粧品開発を続けてきました。その結果、長い期間はかかりましたが、合成成分完全フリーの化粧水やクリームを実現させることができました。

たとえば現在、実際にオーガニックコスメによく使われている天然の防腐剤には、次のようなものがあります。

### オーガニックコスメに使用される天然防腐剤

- ローズマリーサポニン
- カンゾウエキス
- グレープ種子エキス
- レウコノストック／ダイコン根発酵液
- セイヨウシロヤナギエキス
- ユズ種子エキス

もちろん天然の防腐剤は、一つだけでは確実ではないので、いくつかを組み合わせることもよく行われています。一方、天然の界面活性剤としては、レシチンや石けん素地などが天然成分100%のオーガニックコスメによく使われています。

従来、化粧品を完全に天然成分だけで製造するのは不可能という常識が、製造会社にあり続けたのですが、次第に日本オーガニックコスメ協会は、天然成分100%の化粧品製造は可能であると確信するようになりました。

## 消費者の安心安全のために、 世界一厳しいJOCA基準を日本から発信

2010年より、EUからオーガニックコスメ認証基準が発信され始めました。それまで日本オーガニックコスメ協会は、何度か国際会議に出席し取材を重ねて、EUの認証基準の詳細を知ることとなりましたが、結果的には疑問を抱くようになりました。というのも、いくつか



の石油由来の防腐剤や界面活性剤の使用が認められていたからです。特に防腐剤について見てみると、EUのオーガニックコスメ基準で使用が認められている安息香酸Naやソルビン酸Kなどは、日本の当時の厚生省が定めていた「102種類の表示指定成分」の中に入っていた成分で、石油系合成成分です。

表示指定成分とは、アレルギー性があるので、表示が義務づけられていた成分です。果たしてアレルギー性を持つ合成成分の使用が認められている認証基準は、オーガニックコスメにふさわしいと言えるだろうか？ そのような基準が世界的に広がることで、結果的には、消費者のオーガニックコスメへの信頼が揺らぐことになるのではないだろうか？ やがてそんな疑問から、むしろ日本から天然成分100%のオーガニックコスメ認証基準を発信していくべきという考えに至りました。

2017年、日本オーガニックコスメ協会は、独自で天然成分100%のオーガニックコスメ基準を定め、JOCA推奨品マークを作りました。日本オーガニックコスメ協会の立場は、オーガニックコスメの販売を促すという以前に、まずは消費者にとって本当に安心安全なコスメを知らせていくことにあります。合成成分が入り混じった曖昧なオーガニックコスメが増えても、あまり意味がないのではと考えています。JOCA推奨品マークを作ったことにより、たとえ化粧品の成分がよく分からない消費者であっても、確実に天然成分100%の製品を選ぶことができるようになりました。また最近、化学物質過敏症の方から、このJOCAマークを指標に化粧品選びをしているとの連絡を頂きました。

日本オーガニックコスメ協会は、JOCA推奨品マー

クと天然成分100%のコスメ基準を積極的に普及するために、2020年3月、単行本『ジャパン・オーガニックコスメ』（アイシス）を発行し、全国書店で販売しました。幸いにも現在、この本をきっかけにして、さまざまなショップから日本のオーガニックコスメを販売するコーナーを作りたいという企画や申し出が来ています。すでに銀座や代官山では、JOCA推奨品マークがついた天然成分100%のオーガニックコスメを販売するショップが登場して、話題を呼んでいます。

## おわりに

コロナ禍の期間を経て、輸送の問題からも海外化粧品の不安定さが見え始め、改めて国産化粧品が見直されています。日本オーガニックコスメ協会は、天然成分100%の国産オーガニックコスメが世界に誇る最先端技術の結晶であり、それもまた日本の素晴らしいソフトであることを世界に伝えていくことになるかと確信しています。



### 水上洋子 Yoko Minakami

(一社) JOCA日本オーガニックコスメ協会代表。札幌市出身。同志社大学文化史学科卒業。1980年代、作家として女性の自立と仕事、恋愛をテーマに『恋人以上』『新・女の幸福論』『迷宮の月の下』『ユニコーンによろしく』(以上、角川書店)などの著作50冊以上を執筆。その後、環境と女性をテーマにした雑誌「アイシスラテール」を発行。単行本『オーガニックコスメ』シリーズの監修を務める。